

第8期(平成25年3月期)中間決算の概要

1. 連結決算の概要

(単位:億円、単位未満切捨て)

項目	平成24年 中間期 (A)	平成23年 中間期 (B)	増減		平成25年 3月期 通期見通し	平成24年 3月期 通期実績	
			金額 (A-B)	率 (A-B)/(B)			
営業収益	高速道路事業	866	865	1	0.2%	3,408	2,168
	料金収入	849	830	18	2.3%	1,711	1,667
	道路資産完成高	15	31	▲ 16	▲ 52.1%	1,694	492
	その他	2	3	▲ 1	▲ 33.0%	2	8
	関連事業	64	59	4	8.1%	94	203
	受託事業	38	33	5	16.3%	47	157
	その他の事業(注)1	25	26	▲ 0	▲ 2.3%	46	46
(注)2	930	923	6	0.7%	3,503	2,368	
営業費用	高速道路事業	836	849	▲ 13	▲ 1.6%	3,387	2,141
	道路資産賃借料(注)3	637	620	16	2.7%	1,282	1,223
	道路資産完成原価	15	31	▲ 16	▲ 52.1%	1,694	492
	管理費用	183	197	▲ 13	▲ 6.9%	409	425
	関連事業	62	58	3	5.2%	90	202
	受託事業	38	32	5	17.0%	46	156
	その他の事業(注)1	23	26	▲ 2	▲ 9.5%	43	46
(注)2	897	907	▲ 9	▲ 1.1%	3,477	2,341	
営業利益	高速道路事業	30	15	14	95.0%	21	26
	関連事業	1	0	1	541.9%	4	0
		32	15	16	103.9%	25	27
経常利益	35	19	15	81.8%	30	35	
中間(当期)純利益	22	14	8	58.4%	19	11	

(注) 1 関連事業の「その他の事業」には、休憩所等事業、駐車場事業、道路管理代行業、発生土再生活用事業等を含んでおります。

2 営業収益及び営業費用は、高速道路事業と関連事業の金額を合計したものであり、セグメント間の取引を消去したものであり、単純な合計額とは一致しません。

3 機構との協定に基づく変動貸付料制は適用しておりません。
仮に、平成24年中間期において変動貸付料制を適用した場合の道路資産賃借料は、23百万円の減少となります。

4 平成25年3月期の通期見通しには、不確定な要因を含んでおり、将来の業績等を保証するものではありません。
実際の業績等については、様々な要因により変化するものであることをご承知おき下さい。

2. 通行台数実績

(単位:千台)

項目	平成24年 中間期	平成23年 中間期	増減率
通行台数	131,655	134,428	▲ 2.1%
一日当たり通行台数(全体)	719	735	▲ 2.1%
一日当たり通行台数(普通車)	661	675	▲ 2.1%
一日当たり通行台数(大型車)	59	60	▲ 1.7%

(注) 1 前中間連結会計期間においては、料金圏毎に通行台数を計上していましたが、距離料金移行後は、料金圏を廃止したことから、阪神高速道路利用1回毎に通行台数を計上する方法としています。
このため、距離料金移行前の通行台数についても同様の計上方法となるよう換算した数値を用いています。

3. 事業の状況

(1) 高速道路事業

【業績の概要】

- 阪神高速道路の一日当たり平均通行台数は、約71.9万台(前年同期比2.1%減)とやや減少傾向となったものの、割引施策の変更等により、料金収入は849億円(前年同期比2.3%増)
- 道路資産賃借料は変動貸付料制を適用せず、協定に基づく支払額として637億円(前年同期比2.7%増)
- 機構への債務引き渡しに伴う道路資産完成高及び道路資産完成原価は、修繕工事に係る機構引渡し額の減少等により15億円(前年同期比52.1%減)
- この結果、高速道路事業において営業収益は866億円(前年同期比0.2%増)、営業費用は836億円(前年同期比1.6%減)、営業利益は30億円(前年同期比95.0%増)となりました。

【主なピックアップ】

- 平成24年10月1日より、新神戸トンネルが当社に移管され、阪神高速道路のネットワークに組み入れられました。
- 平成24年5月に3号神戸線 月見山～湊川間 において通行止め工事を行いました。また、同年11月、13号東大阪線にてフレッシュアップ工事を行い、本邦初となる短期間での桁・床版の連結化など、橋梁構造を抜本的に改良する工事も併せて実施しました。さらに、構造物の更新の必要性等も含め、長期的な視点での阪神高速道路の維持管理のあり方について検討するため、「阪神高速道路構造物の長期的維持管理戦略に関する検討委員会」を設立しました。
- 現金をご利用のお客さまが円滑に距離料金に移行できるよう「ETC車載器購入キャンペーン」を継続的に実施しています。また、ご好評いただいております「ETC乗り放題パス」を今年度よりGWにも販売するとともに、休日にご利用されたお客さまを対象として、応募された方から抽選でギフトカードをプレゼントする「休日お出かけ応援キャンペーン」を実施するなど、一層のお客さまサービスの向上に努めています。

(2) 受託事業

【業績の概要】

- 大阪府道高速大和川線に係る工事をはじめとして、国や地方公共団体等の委託に基づく道路の新設、改築、維持、修繕等の事業を受託したことにより、営業収益は38億円(前年同期比16.3%増)、営業費用は38億円(前年同期比17.0%増)、この結果、営業損失は3百万円(前年同期は営業利益16百万円)となりました。

(3)その他の事業

【業績の概要】

- 休憩施設の運営、駐車場施設の運営、大阪港咲洲トンネル等の道路管理代行事業、発生土再生活用事業等を展開したことにより、営業収益は25億円(前年同期比2.3%減)、営業費用は23億円(前年同期比9.5%減)、この結果、営業利益は2億円(前年同期比1,350.0%増)となりました。

【主なピックアップ】

- 平成24年6月、奈良県道路公社が管理する第二阪奈有料道路の道路維持業務を共同企業体の一員として受託しました。

(参考)平成24年中間期の個別業績について

(単位:億円、単位未満切捨て)

項目	平成24年 中間期 (A)	平成23年 中間期 (B)	増減		平成25年 3月期 通期見通し	平成24年 3月期 通期実績	
			金額 (A-B)	率 (A-B)/(B)			
営業収益	高速道路事業	864	861	2	0.3%	3,405	2,160
	料金収入等	849	830	19	2.3%	1,711	1,667
	道路資産完成高	15	31	▲ 16	▲ 52.1%	1,694	492
	関連事業	45	39	5	14.3%	61	170
	受託事業	38	33	5	16.3%	47	157
	その他の事業	6	6	0	4.0%	13	13
		909	901	8	0.9%	3,467	2,330
営業費用	高速道路事業	834	848	▲ 14	▲ 1.7%	3,386	2,144
	道路資産賃借料	(注)1 637	620	16	2.7%	1,282	1,223
	道路資産完成原価	15	31	▲ 16	▲ 52.1%	1,694	492
	管理費用	181	196	▲ 14	▲ 7.6%	409	427
	関連事業	43	38	5	14.7%	58	167
	受託事業	38	32	5	17.0%	46	156
	その他の事業	5	5	0	0.7%	11	11
	878	887	▲ 9	▲ 1.0%	3,444	2,312	
営業利益	高速道路事業	30	12	17	133.7%	19	16
	関連事業	1	1	0	0.8%	3	2
	31	14	17	122.0%	23	18	
経常利益	33	17	16	99.3%	25	22	
中間(当期)純利益	22	14	7	49.7%	17	13	

- (注) 1 機構との協定に基づく変動貸付料制は適用しておりません。
 仮に、平成24年中間期において変動貸付料制を適用した場合の道路資産賃借料は、23百万円の減少となります。
- 2 平成25年3月期の通期見通しには、不確定な要因を含んでおり、将来の業績等を保証するものではありません。
 実際の業績等については、様々な要因により変化するものであることをご承知おき下さい。